

「ディスカバー農山漁村の宝」有識者懇談会議事概要

1. 日 時：平成 30 年 6 月 1 日（金） 11:00～11:30
2. 場 所：総理官邸 3 階南会議室
3. 出席者：菅官房長官、野中農林水産大臣政務官、田中内閣府副大臣、西村内閣官房副長官、杉田内閣官房副長官、西川内閣官房参与、古谷内閣官房副長官補、住澤内閣官房内閣審議官、荒川農村振興局長
林座長、まくどなど委員、織作委員、田中委員、藤井委員、向笠委員、横石委員
(欠席：今村委員、永島委員、三國委員)

4. 概 要

- 林座長から開会挨拶
 - ・ この取組も 5 回目になった。昨年度は、31 地区を選定し、農泊、ジビエ、輸出、女性の活躍、農と福祉との連携、6 次産業化などに取り組む地域活性化の優良事例を発掘することができた。
 - ・ また、有識者委員の意見から、グランプリ受賞地区に海外見本市への出展の機会を提供し、初めて「ディスカバー農山漁村の宝」を海外で PR することができた。
 - ・ 本日は、今年度の第 5 回選定の進め方などについて活発に意見交換を行ってまいりたい。
 - ・ また、事務局から、これまでの選定地区のフォローアップについても報告があると思うので、よろしくお願ひしたい。
- 菅官房長官から挨拶
 - ・ 安倍政権においては、農業の成長産業化を進め、農山漁村の「所得向上」を図ることは、「成長戦略」と「地方創生」の重要な柱の一つと位置付けている。
 - ・ 政権発足以来、魅力ある我が国の農山漁村が賑わい、活性化するよう、自然や文化、食といった地域の資源を活かした「農泊」の取組みや、鳥獣被害の拡大を防ぎつつ農山漁村の所得向上につなげるジビエの利活用など、様々な地域の取組みを政府一丸となって後押ししてきた。
 - ・ 「ディスカバー農山漁村の宝」は、平成 26 年度に開始して以来、これまで 111 地区の優良な取組みを選定してきた。これらの地区では、選定前から比べて売上が増え、関係者の意欲も高まっているほか、視察に訪れる団体も増えるなど、効果が着実に見られる。
 - ・ 今年度は第 5 回目の選定となる。優良な取組の促進や横展開が一層図られ、「ディスカバー農山漁村の宝」が更に進化するようなアイデアや工夫など、委員の皆様の忌憚りの無い御意見をお願ひしたい。

- 野中農林水産大臣政務官から挨拶
 - ・ 農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国に発信することを通じて他地域への横展開を図る「ディスカバー農山漁村の宝」は、平成26年度からスタートし、過去4回で111地区が選定された。
 - ・ これまでの選定地区について、選定前年度と選定翌年度を比較すると、例えば、収益事業を実施している地区の売上は、105億円から117億円と12%増加し、また、視察に訪れる団体の数も654団体から978団体と50%増加するなど、具体的な効果につながっている。
 - ・ 農林水産省では、農山漁村の活性化や所得向上に向け、「農泊」の推進や「ジビエ」の利用拡大などについて重要課題として取り組んでいるところ。
 - ・ 第5回選定に当たっては、これらの課題について取組を進めている地区からも多くの応募があることを期待したい。

- 田中内閣府副大臣から挨拶
 - ・ 地方創生に向けた取組が全国で行われるなか、地域の人々の熱意溢れる取組を選定し、全国へ情報発信することにより、他地域への横展開を図る「ディスカバー農山漁村の宝」は、大変意義のあるものと認識している。
 - ・ 政府では、地方の活力なくして日本の活力なしという思いで地方創生に取り組んでいるところ。地方創生には、若者が夢や希望をいざい地方へ移住する動きを加速するとともに、地方における人材確保策として女性や高齢者の活躍、子供の農山漁村体験等を推進することが必要。
 - ・ このような取組が「ディスカバー農山漁村の宝」として選定され、さらに優良事例が全国へと広がっていくことが、地方創生の礎になるものと考えている。

(荒川農村振興局長から、資料に基づき、今後の進め方についての説明及びフォローアップ調査結果の報告。その後、委員からいただいた主な御意見は以下のとおり。)

- ・ 海外とやりとりしているなかで、より日本の宝物のポテンシャルを海外に発信し、また、海外から受け入れられることが、すごく大事だと感じる。認定されて終わりにするのはあまり良くないことなので、今後、我々のフォローアップとしての現地調査を進めるなかで、ポテンシャルをより引き出すために取り組むことは、すごく良いことだと思う。まだ静かに眠っている宝物、特に漁村と山村、林業と漁業の応募件数をもう少し増やせたら良いと思う。

- 農業では農業女子という言葉がかなり広がっているが、林業女子とか水産女子という言葉はあまり聞かれない。農業女子の写真を撮っているカメラマンは結構いるので、3女子を被写体として考えていたら面白いと思う。
- マルシェは、年に2回だが、1日だけでなく、できれば2日、3日と増せたら良いと思う。また、今年から実施される現地視察を楽しみにしている。
- 応募の方法に他薦が入ったことは、とても大事だと思う。雑誌などを見ていても、色々発見することがあるので、雑誌社の方たちと連携して、すばらしい取組を推薦してあげたらと思う。
- 5回の回数を重ね、発展性を感じているなかで、全国への発信というところにおいては、対象者を明確にして、どの段階で何をやっていくかを整理し、個別のアプローチ方法が必要になると思う。例えば、漁師さんが、都会の若者をモーニングコールで起こしてくれる企画を機に、都会で悩んでいた人が漁師さんのところに弟子入りしているという事例もあるので、発信する対象者を細かく決めた企画をやることで、ディスカバーの「宝」の人と、ほかの地域をつなぐ試みができるかと思う。
- 地域が成長して行くに当たり、新しいことをしないとメディアは注目をしてくれない。また、地域のリーダーのネットワーク強化として、「横のつながりを持つこと」や「情報交換をすること」だけではなく、新しいヒントやアイデアを外から集めることが大切。選ばれた特典として、「多くの人からアイデアが集まる権利を有する」ということを広めると、応募者ももっと気軽に楽しく参加できると思う。
- 海外輸出において米が売れにくい状況のなか、和食という文化自体が輸出されていくことが重要だという部分もある。一方、地方の道の駅などに行っても、地産地消だとか、そういうものが本当に活かされているのかということに、日本の「食」の危機感を感じる。日本ではまさにこれからだと思うが、世界では、「食」を通じた地域活性化が非常に盛んで、「食」で地域興しが出来始めている。特別賞の「6次産業化」のテーマにおいては、「食」による地域活性化など、「食」を強く出すのも手だと思う。
- 集落的な取組がグランプリになりやすい一方で、農家など個人の経営モデルに関しても評価してはどうかと考えている。

- ・ 昨年、ジビエの事例の中でも、鳥取県の若桜地区を訪問した。地域を挙げてジビエを PR しているほか、受賞を機に、都内のお店でも若桜のジビエが活用されるようになり、そこから地元でも活用するお店が増えている。洋風料理だけでなく、和食の前菜などにジビエが活用され、新ジビエ料理が生まれている。また、鳥取の地域おこし協力隊に入っていた若者達が、わかさ29工房を活動の拠点とし、ジビエ女子も生まれつつあることなど、ひとつの「若狭モデル」と言って良いほどのめざましい成果が見られる。そこで活動する若者達は、「ディスカバー農山漁村の宝」のことを意識が高い人達だけでなく、もっと一般の方にも知ってもらいたいと希望していた。
- ・ 年々応募地区数が増加し、勢いが出てくることによって、色々な現場での気付きが出てくると思う。特に、「ディスカバー農山漁村の宝」が、若者の考え方によって新しい地域を創るということにつながって行ったらありがたい。また、企業の CSV 活動との連携なども考えられる。まだまだ地域では、気が付いていないことがたくさんあると思う。

5. 今後の予定等

- ・ 事務局提案のとおり、第5回選定の実施方針等について了解。
- ・ 6月1日から8月13日まで、優良事例の公募を行う。
- ・ 7月から8月初旬にかけて、有識者委員による過去に選定された地区への現地調査を実施。
- ・ 有識者委員による審査を経て、10月上旬頃に優良事例を選定し、11月下旬に交流会を実施する予定。